甲斐黄金村・
湯之奥金山博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡ー中山金山

No.106
2024.1.15

2024年2月から通常開館

昨年12月から空調設備改修工事のため臨時休館となっている当館ですが、お正月は2、3日、5～8日の6日間、砂金採り体験のみ開館し、多くのお客様が楽しんでくださいました。工事完了後の２月１日より通常開館の予定です。(毎週水曜休館) なお、工事進捗状況によって休館・開館状況が変わる可能性があるため、ご来館の際は、当館公式HPを必ずご確認ください。

みなさまにはご迷惑をおかけいたしますが、ご理解・ご協力をお願いいたします。

甲辰の年を迎えて　十干十二支と身延

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館　館長　**信藤祐仁**

令和6年（2024）明けましておめでとうございます。今年も甲斐黄金村・湯之奥金山博物館を、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、今年の干支（えと）は「甲辰（きのえたつ）」です。「辰」の原字は、「蜃」で、二枚貝が開き弾力性のある肉を動かしているさまを描いたもので、「振」、「震」の意味を持っているそうです。元日に能登半島では大地震が発生しました。山梨でも揺れが確認されてビックリしました。被害に遭われました方々に、心よりお見舞い申し上げます。年頭から「震」の影響が出てしまったのは、歴史の必然なのでしょうか。

干支とは正しくは「十干十二支」の略です。「甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸」の十干と「子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥」の十二支の動物を組み合わせた60種類の数を表す言葉です。60で一回りして最初にかえってくるので、60歳を還暦というのもここからきています。

古代中国では、暦や時間、方位を示すのに「十干十二支」が使われていました。この影響を受けた日本でも同様に使われ、昔の成績表「甲、乙、丙」や契約書の書類中に「甲、乙」としても使われていますね。

十干は、中国では10日ごとに循環する日を表すために使われており、「木、火、土、金、水」にそれぞれ兄（え）と弟（と）とあります。これは陰陽道の五行思想の影響もあって、「甲」は十干の1番目なので、「木の兄」（きのえ）となり、「木の陽」を意味します。生命が誕生した状態や、急成長、寛大、発展といったことを表しています。

「甲」は、学業成績では一番上のランクであり、等級では最上位を表しています。山梨県の古い国名「甲斐国」の「甲」です。「甲斐」の国名は、古くは「歌斐」、「柯彼」とも書かれ、好字二字令により「甲斐」に統一されました。ちなみに「斐」の字は、麗しい、美しい、綾があって美しいという意味です。

「辰」は十二支の5番目で、「木の陽」に分類されます。草木の成長が一段落し、整った状態や、春の日差しが平等に降り注ぐ中春のイメージを表しています。

「甲辰」と組み合わされた今年は、陽の気が動いて万物が振動し、急速な成長と変化をさそう年になりそうです。能登半島地震にみられるような振動やマイナス面での変革・変動は、遠慮したいものです。

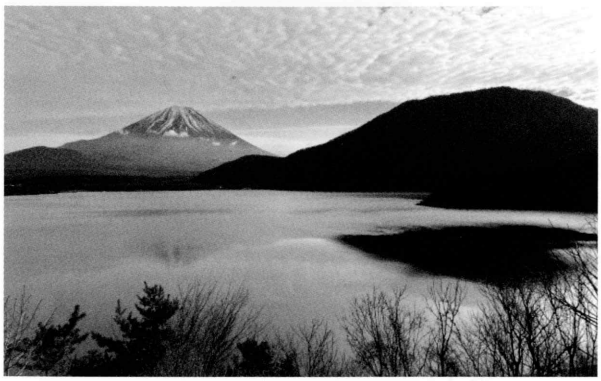
町内の十二支地名

身延町内には、十二支に登場する動物地名がいくつかあります。小字名から拾ってみますと、中富地区に馬船沢、南馬門、鳥屋、国鳥山、鳥屋平、駒形、上子の神、下子の神、馬場があります。下部地区には馬場のみです。身延地区には、鳥居木、亥新田、竜ヶ鼻、鼠沢、馬込、駒狩、庚申畑、牛首、鳥居林があります。馬、鳥、鼠など昔の生活の中で身近に存在する動物地名が多く見られます。馬関係の地名は、中世にかつて存在した私牧である飯野牧、南部牧に関する地名がその由来なのかもしれません。

町内の竜地名

今年の「辰」が使われた地名は身延町内ではありませんが竜を使う地名といえば、「竜ヶ岳」が有名です。元旦には富士山頂から上っ

てくる初日の出が「ダイヤモンド富士」になる竜ヶ岳の山頂は、毎年登山者でにぎわいます。今年の干支が「辰」であり元日は晴天に恵まれたので、例年以上にたくさんの登山者で賑わい、初日の出の御来光を拝むことができたと思われます。



本栖湖からの竜ヶ岳と富士山

地名ではありませんが、山号寺号に「竜」または「龍」の字を冠する寺院が多くあります。合併前の旧町誌から拾い出してみると、旧下部町には竜光山宗泉院、金竜山常幸院、延福山竜沢寺、永寿山大竜寺、巌竜山慈観寺、祥雲山竜泉寺、竜湖山方外院、竜亀山磯善院、金竜院があり、旧中富町にはないのですが、旧身延町に華岳山龍雲寺、安竜山唯勝寺、帯雲山金竜寺があります。

龍は仏法を守護し、農耕に不可欠な慈雨をもたらす空想上の動物であるため、多くの寺院の名称に用いられているだろうと想定されます。

歴史遺産に見られる龍

身延山久遠寺本堂外陣にある天井画の黒龍は、有名な日本画家加山又造の作です。11 m四方の金箔の上に墨で描かれた龍はみごとです。また、身延町の飛び地の七面山の池には、身延山の守護神八大竜王が祀られています。

「下山大工」は下山地区を拠点とした宮大工集団で、社寺建築や彫刻を専門に手掛け、甲斐国内はもとより江戸や駿河でも幅広く活躍しました。「清原院の吻龍」や「円明寺七面堂の竜」は身延町指定文化財であり、そのほか竜をモチーフとした鴨居や欄間彫刻が町内いたるところの寺社に残されています。

巌竜山慈観寺の竜の彫刻

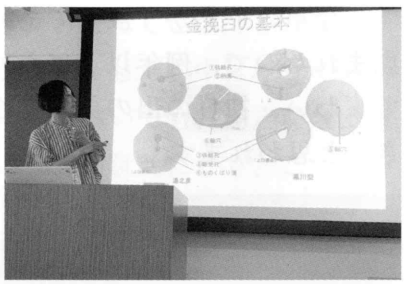
□第３回　館長講座「山梨の考古学 ―峡南地域を中心として―」

【日　時】２月25日（日）　午後１時30分～（約90分）
【場　所】博物館１階　多目的ホール
【参加費】無料　※事前申込不要。当日、講座の開始時間までにお越しください

□第２回　アウトドア版館長講座　シン・サンポ「久那土編」

【日　時】３月17日（日）　９時30分　JR身延線 久那土駅に集合
【参加費】無料（美枝きもの資料館 入館料500円は自己負担願います）
【定　員】15人　※要事前申込。定員になり次第、締切
【持ち物など】
歩きやすい服装でおでかけください。また、雨天に備えて傘やタオルなどがあると安心です。
電車や施設を使う場合の費用は自己負担となります。往復運賃・施設観覧料をご用意ください。

調査研究 01　9/14 ㊍　資源・素材学会（秋季大会・松山）参加



当館で行っている湯之奥金山をはじめとする鉱山遺跡の調査研究活動は、博物館として重要な活動基盤のひとつです。調査研究・資料収集・保存・展示・公開を通じて、地域住民をはじめ広く一般の人々に金山遺跡の歴史やその価値を伝え、文化的活動を豊かにする場を提供していくことが博物館に求められていると考えています。

そうした背景のもと、春と秋の年２回開催される資源・素材学会「鉱業史」分野において、当館学芸員が研究成果を発表しています。調査研究はそのほとんどが小さな一歩で地道な活動ではありますが、学会参加の意義は、研究成果を他の研究者と交流・意見交換するとともに、そこから自身の新しい発見やその後の博物館活動にもフィードバックしていくところにあります。愛媛大学で開催された９月の秋季大会では、当館から小松・伊藤両学芸員が参加し、小松学芸員は「金挽臼擦面の形状変化と産鉱量についての考察～金挽臼製作実践をとおして～」、伊藤学芸員は「情報端末に搭載されたLIDARを用いた鉱山遺跡測定～生野銀山編～」と、分野は同じでも全く異なるテーマ・視点でのアプローチで発表しました。

博物館活動は多岐にわたるため研究だけに専念することはできません。そうした中、その成果を取りまとめることは、時間を要する上にじっくりと考察していかなければいけないため、決して平易な活動ではありません。しかしこれまでの研究活動の積み重ねにより、当館は鉱山史研究の基本となる施設のひとつと目されるようになっています。また、学会発表を通して館名を発信することで、館の知名度の広がりにもつながっています。今後も、積極的に調査研究活動を行って鉱山史研究の進歩を目指すとともに、文化的側面から地域に寄与して参りたいと思います。３月には千葉工業大学において春季大会が開催されます。両学芸員も参加・発表予定ですので、そのようすは次号にて報告いたします。

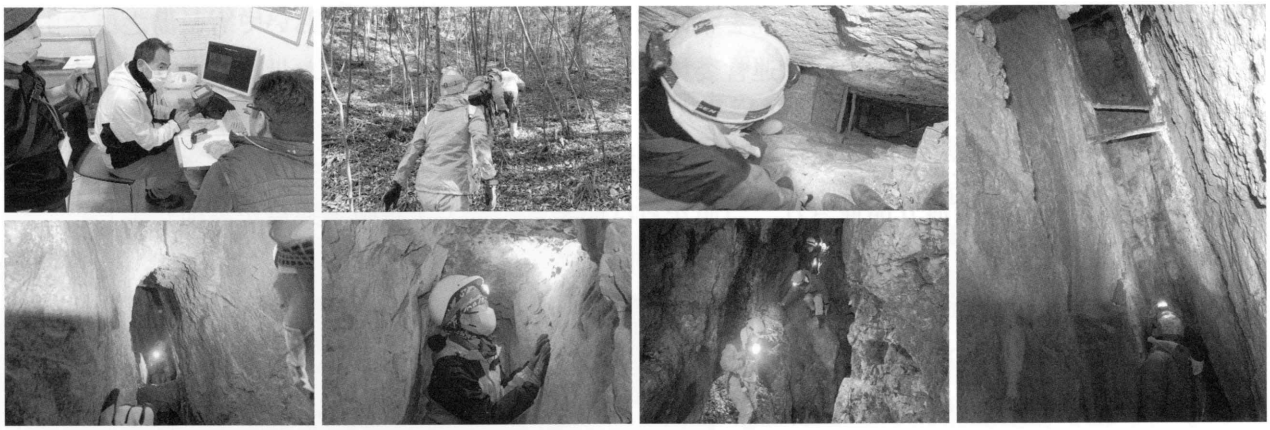
調査研究活動 02　12/23 ㊏～ 24 ㊐　多田銀銅山・生野銀山 現地視察

鉱山史研究において、目覚ましい調査進捗がみられる兵庫県。日本を代表する鉱山のひとつが、猪名川町にある国史跡多田銀銅山と、朝来市の生野銀山です。年末差し迫るこの日、小松・伊藤両学芸員が先方での調査機会に合わせ同行し、現地へと赴きました。

多田銀銅山では、「青木間歩のあかりづくりと坑道内を探検してみよう」という体験学習会が行われていました。このイベントは、さざえの殻に菜種油を入れた当時の光源である螺灯（らとう）を製作し、その灯で暗闇の坑道内を歩いて実体験するというもので、当館の調査研究活動においてもご指導いただいている九州大学の中西哲也先生・久間英樹先生が講師を務めました。学習会ははとても盛り上がり、子ども達は鉱山への興味関心が高まったようすで、教育普及活動の事例として大いに勉強となりました。事業終了後には、多田銀銅山の青木間歩周辺遺構の計測や調査へ同行させてもらい、採掘方法や鉱脈の追い方など比較研究材料を得ることができました。

翌日は生野銀山において、スマートフォンに搭載されたLiDAR機能を用いて遺構の形状や位置関係の測定を行いました。ここで得た調査手法は今後、湯之奥・茅小屋金山を中心に遺構の情報収集に活用していきます。

多田銀銅山のガイダンスを行っている「多田銀銅山悠久の館」では、現在、２鉱山の関係性や歴史的共通点などを比較できる企画展「東・多田銀銅山と西・生野銀山」が開催されています。銀と銅を採掘対象鉱物とした鉱山遺跡の遺構や、作業工程などわかりやすく展示紹介されています。兵庫県を訪れる機会の際にはぜひご覧ください。※3/31まで。開館情報は公式HPにてご確認ください



▲多田銀銅山では、坑道維持のための鉱柱や木製の打ちカイ、雁木ばしごなどが多くみられた

活動報告 01　9/17 ㊐　水曜どうでしょうキャラバンで出張砂金採りで大にぎわい！

HTBの人気番組「水曜どうでしょう」が、キャラバン隊として身延町にやってきました。身延総合文化会館芝生広場が会場となり、当日はとても良い晴天に恵まれました。県内外から3000人を超えるファンが集まった中、当館は砂金掘りブースの出店や「砂金採り合戦」と銘打ったメインMC同士の砂金採り対決でホストを務めさせていただきました。終日大きな盛り上がりを見せるなか、もーん父さんも会場の盛り上げ役に一役買いました。

活動報告 02　10/15 ㊐　秋の遺跡見学会 ～湯之奥・中山金山～

今年度の遺跡見学会は、年間を通じて多くのお問い合わせをいただく中山金山遺跡を舞台としました。当日朝は雨が降っており、実施が危ぶまれましたが、すぐに雨が上がる予報だったこと、登山道がしっかりと整備されていることをふまえ、開催にいたりました。約1時間半をかけ、精錬場テラスを中心に、館長･学芸員の説明で意向を見学しました。降雨によるスケジュール変更のため、残念ながら採鉱域の見学はできませんでしたが、参加者からは「また行きたい」との感想をいただくことができました。次年度の見学会も楽しみにしていてください。

■活動報告 03　10/28 ㊏　考古学と中世史研究シンポジウム

日本の考古学界のみならず、多岐にわたる学問分野を牽引し、長きにわたってご活躍されてきた萩原三雄先生が2022年2月19日に急逝されたことは、大きな衝撃を与えました。中世城郭や鉱山史研究の世界でも先陣を切った最新研究を常に打ち出され、当館の活動においても、湯之奥金山遺跡総合学術調査では副団長、その後は運営委員会委員長としてもたいへんお世話になり、ご貢献いただきました。

そうした萩原先生の数えきれないほどの多大な功績を称える追悼シンポジウムが帝京大学文化財研究所において2日間に渡り開催され、当館からは館長と小松・伊藤両学芸員が参加しました。初日は鉱山史、二日目は中世考古学をテーマとし、両日とも基調講演がありました。特に、初日の講演では、宇佐美亮氏(佐渡市世界遺産推進課）による世界遺産登録活動の最終段階とも言える佐渡金山現地の最新状況や、井澤英二先生（九州大学名誉教授）による、鉱山史の最新研究からみる新解釈などの紹介がありました。

新刊のお知らせ▶▶ 萩原三雄先生を偲び、先生とともに研究、あるいは指導を受けた研究者たちが、萩原先生のフィールドである甲斐の中世史をテーマに捧げる論文集が2024年2月19日に発刊されます。
『甲斐の中世史』　400頁 / 編者　萩原三雄氏追悼論集刊行会（16,500円）

■活動報告 04　11/13 ㊊　第2回 博物館運営委員会

幅広い分野で活躍されている委員のみなさまにお越しいただき、今年度の運営状況や来年度に向けた計画、またその先を見越した運営方針についてご審議・ご助言いただきました。定期的に外部から博物館やその運営をみていただくことで、事務局から見えにくくなっていた部分を再確認できます。課題はたくさんありますが、ひとつでも多くの課題解決に向けて取り組んでまいります。

■活動報告 03　11/23 ㊍㊗　第2回 館長講座「甲斐の信仰の山々 ―南巨摩地域を中心として―」

空調改修工事による臨時休館前のラストイベントであった館長講座は、行楽の秋にふさわしい「山岳信仰」をテーマに開催しました。山梨県は県土の8割を山岳地が占めています。北には八ヶ岳、北から東に関東山地が、西側に赤石山脈（南アルプス）、南に富士山、中央には山梨を東西に分ける御坂山地が取り囲んでいます。そうした平地の極めて少ない山岳が連なる地勢である甲斐のエリアならではの個々の山にまつわる信仰について、館長が撮影した山の写真とともに話がされました。
当日は町内の方を中心に多くの方が参加し、興味深く耳を傾けていました。

※次回の館長講座情報は本紙 P. 3参照

■トピックス 01　11/13㊊　48 万人目の記念入館のお客様をお迎えしました

47 万人目のお客様をお迎えした今年の砂金掘り大会から約 3 か月半が経ち、ちょうど博物館運営委員会が開かれていたこの日、有料入館者 48 万人目のお客様をお迎えすることができました。

記念入館者となったのは川崎市からお越しの秋葉さんご一家。会議中である館長やスタッフの代わりに博物館マスコットキャラのもーん父さんが出迎え、記念撮影などのセレモニーの後、展示観覧と砂金採り体験を存分に楽しまれていきました。後日、当館オリジナルの金箔記念章をお送りし、お礼のお電話までいただくほど喜んでいただけたようでスタッフもたいへん嬉しく、励みになりました。

■トピックス 02 「黄金 KAIDO プロジェクト」協賛中

本プロジェクトは、佐渡（新潟県）と土肥（静岡県）を結ぶ海路と高速道路のルートを「黄金 KAIDO」と名付け、「金山」を共通話題として山梨、静岡、長野、新潟 4 県の観光誘客を促進しようと始まりました。すでに、特設 HP や SNS での情報発信や交通費の割引、デジタルスタンプラリーなどさまざまな取り組みがなされていますが、このたび、当館も協賛スポットとなりました。

当館では、チケット（展示観覧・砂金採り体験・共通セット）ご購入のお客様で「黄金 KAIDO」HP のクーポン画面をご提示いただくと、博物館オリジナルクリアファイルをプレゼントいたします。（※ 1 人 1 枚、1 回限り）この機会にぜひ、ご利用ください。

↑「黄金 KAIDO」公式 HPはこちら

■もーん父さん活動トピックス

9/21㊍　秋の交通安全運動でドライバーの皆様に安全運転を呼びかけ

春に続いて、JR 身延駅で行われた秋の交通安全啓発運動に当館のもーん父さんが参加しました。行きかうドライバーや通学途中の高校生に反射板を手渡し、交通安全を呼びかけました。

今年もたくさんの年賀状がもーん父さんに届きました

これからのイベント情報

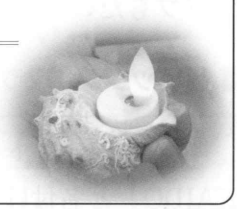
2/3㊏ 13:30～16:30 博物館応援団Au会主催事業
第12回 金山遺跡・砂金研究フォーラム
要申込

- **場　所**：博物館２階　映像シアター
- **参加費**：500円（資料代として）
- **定　員**：50人 ※定員になり次第、締切
- **ポスターセッション**
  堀浩樹 / 加藤悠喜（兵庫）「和歌山県の砂金」
  中村軒一（愛知）「シリーズ・坑道を訪ねて！ ―保金山編―」
  広瀬義朗（岐阜）「飛騨諸金山の鉱山臼調査」
- **発　表**
  石田美月「佐渡鉱山の形成年代に関する最近の話題」
  野村敏郎（兵庫県）「砂金を追跡して金鉱脈発見」
  若月章弘（静岡県）「大野土佐日記と砂金掘り」
  広瀬義朗（岐阜県）「静岡県大井川流域の柴金遺構」
  小俣珠乃（神奈川県）「湯之奥金山と御坂山地の地質学的な成り立ち」
  重藤章郎「東南アジアで砂金掘り　～タイ北部編～」

2/17㊏ 13:00～15:00 久間先生のものづくり教室
～坑道で使われた灯り・螺灯をLEDで作ってみよう～
要申込

- **場　所**：博物館１階　多目的ホール
- **参加費**：500円（材料費として）
- **定　員**：小学生８名
- **講　師**：久間英樹先生（九州大学総合研究博物館専門研究員）

※半田付け作業を行いますので、小学３年生以下は保護者同伴。
詳細は博物館HPをご確認ください



2/25㊐ 13:00～15:00 第3回 館長講座

3/17㊐ 9:30～12:30頃 第2回 シン・サンポ ～久那土編
要申込

2/25㊐～3/31㊐ ミニ写真展「甲斐の山々」
観覧無料

山をフィールドワークとしている信藤祐仁館長が高標高の山頂から撮影した「山の風景」をお楽しみください。

企画パネル展 3/14㊍～4/25㊍ 「これだけは知っておきたい！日本の鉱山遺跡」
観覧無料

全国に数多ある鉱山遺跡。特に当館で調査研究のために現地に赴いている鉱山、中山金山同様に史跡指定を受けている鉱山など、パネル紹介していきます。

3/23㊏ 10:00～13:00 山梨郷土史研究会×湯之奥金山博物館　共催事業
シリーズ「現地で学ぶ　下部温泉と湯之奥金山の歴史」
要申込

- **時　間**：午前10時に金山博物館に集合、午後１時解散
- **参加費** 山梨郷土史研究会会員500円、
  非会員1,000円
  （資料代・入館・体験料・保険代ほか）
- **定　員**：30人
- **コース**：①湯之奥金山博物館（座学と展示解説）、②下部温泉郷見学、③熊野神社見学（終了後、マイクロバスにて湯之奥集落へ移動）、④国重要文化財門西家住宅外観見学、⑤湯之奥金山遠望・解説

※全員に参加記念しおりプレゼント。解散後、希望者は湯之奥金山博物館の再見学と砂金採り体験ができます。

※内容が変更になる場合もございます。各イベント最新情報は当館HP、またはお電話にてご確認ください。

編｜集｜後｜記

令和６年能登半島地震、羽田空港事故、北九州市での火災など、2024年は年初から悲しい大きな災害が発生しました。この度の事故・災害で被害に見舞われた皆様に心よりお見舞い申し上げると共に、いま復旧復興に向けて最前線で頑張っておられる皆様に大きな尊敬の念を抱き、エールを送りたいと思います。地域では無病息災、五穀豊穣を願う道祖神まつりが行われるこの時期、これ以上の悲しみがもう拡大しないことを一心に神様に願います。

甲斐黄金村・
湯之奥金山博物館だより
第106号
令和6（2024）年1月15日

発行　甲斐黄金村・湯之奥金山博物館
〒409-2947　山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先
TEL 0556-36-0015　FAX 0556-36-0003
博物館HP▶https://www.town.minobu.lg.jp/kinzan/
E-mail▶yunoking@town.minobu.lg.jp　もーん父さん▶X（旧Twitter）＆ Facebook